

WBF General Conditions of Contest

25. スクリーン

世界ブリッジ選手権では、可能な限りスクリーンを使用する。

25.1 使用方法

ノースとイーストがスクリーンの同じサイドに座る。ビディングトレイにボードを置いたり取り除いたりするのはノースの責任であり、スクリーンの小窓の操作はウエストの責任である。

使用手順は以下の通り。

ノースがボードをビディングトレイに置く。

小窓を閉じて、ビディングトレイが小窓の下を行き来できるようにする。(小窓はオークション期間中は閉じたままにしておく。)

プレイヤーはカードをボードから取り出す。

ビディングボックスを使用してコールを行う。

プレイヤーは選んだコールをスクリーンの自分達の側だけから見えるようにビディングトレイに置く。

プレイヤーの最初のコールは、ビディングトレイの左端に触れるように置き、それ以降のコールはその右側に見やすいように重ねて置く。

これらの動作はできる限り静かに行う。

スクリーンが使用されている場合は、トレイにカードを置いて手を離れた時にそのコールが行われたとみなされる。

同じ側の 2 人のプレイヤーがコールを行った後、ノース又はサウスがビディングトレイをスクリーンの中央部の下から滑らせて、反対側のプレイヤーのみに見えるようにする。

反対側のプレイヤーも同じような手順でコールを行い、ビディングトレイを戻す。

この手順をオークションが終了するまで繰り返す。

トレイを戻す時は、テンポをランダムに変えるのが望ましい。

4 人全員のプレイヤーがオークションの確認を行う機会を得た後(オークションの復唱を求める権利に相当する) ビディングカードをビディングボックスに戻す。

正当なオープニングリードが表向きに出された後、4 人全員にダミーのカード及びそのトリックにプレイされたカードが見えるようにスクリーンの小窓を開く。

ディフェンダーのカードが見えたが、スクリーンのためにディクレアラーからは見えなかった場合は、ダミーはそれを指摘することができる。

25.2 ビッドの言い直し

トレイに置かれて手を離れたコールは、下記の場合ディレクターの指示により言い直すこ

とができる。

- a) 違法な、または認められないコールの場合は（この場合は言い直しをしなければならない）、スクリーンが使用されている場合は、どちらかのスクリーンメイトがこれに気付いた場合直ちに行う。又は
- b) ディレクターが、誤って行われたコールと判断した場合。又は
- c) ブリッジの規則 25 条が適用される場合。
25 条 A 項が適用される場合、意図しなかったコールの言い直しに関する「考える間」は、そのプレイヤーが意図しなかったコールをしたと気付いてから言い直すまでの時間となる。

25.3 アラートとその説明

- a) 付録 3 に定義されるアラートが必要なコールをしたプレイヤーは、スクリーンメイトに対してアラートし、そのパートナーはトレイがスクリーンの反対側に送られた時にアラートする。アラートはアラートカードをスクリーンメイトの最後のコールの上に置くことによって行い、アラートされたプレイヤーはアラートカードを返すことによってアラートを認識したことを伝える。プレイヤーは、筆記による質問により相手方のコールの説明を求めることができ、スクリーンメイトが筆記により答える。
- b) プレイヤーは、オークション期間中いつでもスクリーンメイトに対して、筆記により相手方のコールの完全な説明を求めることができる。回答も筆記で行う。
- c) オークションの終了からプレイの終了までの間、プレイヤーはコールの意味や受けた説明に関する情報をスクリーンメイトからのみ受ける。プレイ期間中の質問は小窓を閉じた状態で筆記により行い、答えの後で小窓を開ける。

25.4 スクリーンを使用している場合の調整に関する修正

- a) スクリーンの反対側まで伝わった違反行為は通常の規則が以下のように適用される。
 - i) 認められないコール（ブリッジの規則 35 条参照）は訂正しなければならない
 - ii) プレイヤーが規則違反を犯し、意図せずに（それ以外の場合は 23 条が適用されることがある）そのスクリーンメイトがトレイを反対側に送ってしまった場合は、規則により LHO がそのコールを受け入れることができる場合は、トレイを送った側がそのコールを受け入れたとみなされる。
- b) 違反行為がスクリーンの反対側に伝わる前に、反則者又はそのスクリーンメイトはディレクターを呼ぶべきである。違法なコールを受け入れてはならず、調整なしに訂正しなければならない。（但し、(a)(ii)参照）
その他の違反行為はディレクターにより調整され、合法的なコールのみがスクリーンの反対側に送られる。
規則の適用のために必要な場合を除いて、スクリーンの反対側のプレイヤーに違反行為

があったことが伝わることがあってはならない。

- c) プレイヤーが順番外のリードをしようとした時は、スクリーンメイトはこれを防止するよう努めるべきである。順番外のオープニングリードはスクリーンが開いていなければ調整なしに取り消すことができる。それ以外の場合は：
 - i) スクリーンが開かれたがディクレアラ側はその責任がなく、もう一方のディフェンダーが表向きにリードしていない場合は、54条が適用される。
 - ii) ディクレアラ側がスクリーンを開いた場合はそのリードを受け入れたことになり、元々のディクレアラが実際のディクレアラとなる。23条が適用される場合がある。
 - iii) ディフェンダーの両方が表向きにリードした場合は正しくない方のカードがメジャーペナルティカードになる。
 - iv) ディクレアラ側がカードを見せた場合は48条が適用される。
- d) アラート対象のコールがされた場合は25.3参照。
- e) プレイヤーがコールを行うのに通常より時間をかけた場合、自らブレイクインテンポを指摘することは、反則行為とはならない。但し、そのスクリーンメイトはそれを指摘してはならない。
- f) トレイを受け取った側のプレイヤーが、ブレイクインテンポがあり、その結果不当な情報が伝わった可能性があると考える場合は16条B項2に従いディレクターを呼ぶべきである。これはオープニングリードが出されてスクリーンが開かれる前ならいつでも可能である。
- g) (f)項の定めに従わなかった場合は、ディレクターはブレイクインテンポを指摘したのはそのパートナーであると判断するかも知れない。その場合、ブレイクインテンポはなく不当な情報もないと判断される可能性が高い。トレイを返すまでの時間が20秒以内の場合はブレイクインテンポがあったとはみなされない。